

成人キャリア成熟尺度 (ACMS) の信頼性と妥当性の検討

坂 柳 恒 夫

(職業指導教室)

Examination of Reliability and Validity of Adult Career Maturity Scales (ACMS).

Tsuneo SAKAYANAGI

(Department of Career Guidance)

問題と目的

キャリア・カウンセリング (career counseling) は、学校における進路相談、公共職業安定所における職業相談、職場における人事相談や産業カウンセリングなどを包括する、キャリア (生き方や進路) に関するカウンセリングである (木村, 1997)。日本進路指導学会 (1996) の定義によれば、キャリア・カウンセリングとは、「生徒、学生、成人のキャリアの方向づけや進路の選択、決定に助力し、キャリア発達を促進することを専門領域とするカウンセリング」とされている。この定義にみられるように、キャリア・カウンセリングとは、1人ひとりのキャリア発達ないしキャリア成熟の促進を目指したカウンセリングといえる。

ところで、産業社会の著しい変化は、勤労者の意識と行動に大きな影響を及ぼしてきた。産業構造の変革に伴って、組織の人事管理が、従前の終身雇用・年功序列の方式から能力主義・実力主義の方向に移行しつつある。この流れの中で、勤労者の誰しもが自己の生き方や職業生涯、生きがいなどの問題に対峙することになる。勤労者1人ひとりが自己のキャリアを見据えながら、自己の意思と責任のもとに、よりよい生き方や職業生涯を創造していく「主体的なキャリア形成力」が要請されているといえる。また、組織の人材育成システムにおいても、組織主導型の能力開発から個人主導型の能力開発の推進が求められており、重要度を増すことが予測される。こうした状況や背景を踏まえて、産業カウンセリングにおいて、キャリア・カウンセリングが重要な柱になってきている (杉溪・中澤, 1997)。すなわち、勤労者の主体的なキャリア形成を援助・支援するカウンセリングとして期待されている。

成人 (勤労者) のキャリア・カウンセリングを効果的に展開するためには、まず成人期におけるキャリア成熟の実態を的確に把握しておくことが必要であるといえる (坂柳, 1981; Leibowitz & Lea, 1986)。キャリア成熟とは、今日のキャリア・ガイダンスやキャリア・カウンセリングにおける重要概念の1つとなっている。Super (1984) によれば、「キャリア成熟とは、

キャリア発達課題へ取り組もうとする個人の態度的・認知的レディネスである」と定義される。また、King (1989) は、「キャリア成熟とは、知見の広い、年齢にふさわしいキャリア決定をするための個人のレディネスである」と定義している。要するに、キャリア成熟とは、「キャリアの選択・決定やその後の適応への個人のレディネスないし取り組み姿勢である」といえる (坂柳, 1991)。

成人期における勤労者のキャリア成熟を測定する場合の留意点の1つは、「キャリア」をどのように把握するかということである。最近のキャリアの概念は、個人の時間的経過や動態的過程の強調だけでなく、視野範囲においても、「職業」という視点から「人生・生涯」という視点にまで拡大し、より包括的になっている (Gysbers, 1975; Super, 1986; Herr & Cramer, 1988; 中西, 1995)。したがって、成人期における勤労者のキャリア成熟の測定では、職業的側面だけでなく、非職業的側面 (余暇など) も視野範囲に入れておくことが必要であると考えられる。

以上の点を踏まえて、成人 (勤労者) が自己のこれからの人生や生き方、職業生活、余暇生活について、どの程度成熟した考えを持っているのかを測定・評価する成人 (勤労者用) キャリア成熟尺度の作成を試みた。本研究の主な目的は、新たに作成された「成人キャリア成熟尺度 (Adult Career Maturity Scale: 略称 ACMS)」について、その信頼性と妥当性を検討することである。

研究の方法

1. 成人キャリア成熟尺度 (ACMS) の構成

(1) キャリアの系列

成人 (勤労者) のキャリア成熟尺度の構成にあたっては、キャリア概念の空間的広がりなどを踏まえて、①人生キャリア成熟 (主に、人生や生き方への取り組み姿勢)、②職業キャリア成熟 (主に、職業生活への取り組み姿勢)、③余暇キャリア成熟 (主に、余暇生活への取り組み姿勢)、の3系列 (方向) のキャリア成熟を設定した (坂柳, 1990, 1991, 1996)。

〈表1〉 成人キャリア成熟尺度 (ACMS) の構成

系 列 \ 領 域	関心性 (Concern)	自律性 (Autonomy)	計画性 (Planning)
人生キャリア成熟：人生CM (Life Career Maturity)	人生キャリア関心性 〈表2〉の項目番号 1,2,3,10,11,12, 19,20,21(計9項目)	人生キャリア自律性 〈表2〉の項目番号 4,5,6,13,14,15, 22,23,24(計9項目)	人生キャリア計画性 〈表2〉の項目番号 7,8,9,16,17,18, 25,26,27(計9項目)
職業キャリア成熟：職業CM (Occupational Career Maturity)	職業キャリア関心性 〈表3〉の項目番号 1,2,3,10,11,12, 19,20,21(計9項目)	職業キャリア自律性 〈表3〉の項目番号 4,5,6,13,14,15, 22,23,24(計9項目)	職業キャリア計画性 〈表3〉の項目番号 7,8,9,16,17,18, 25,26,27(計9項目)
余暇キャリア成熟：余暇CM (Leisure Career Maturity)	余暇キャリア関心性 〈表4〉の項目番号 1,2,3,10,11,12, 19,20,21(計9項目)	余暇キャリア自律性 〈表4〉の項目番号 4,5,6,13,14,15, 22,23,24(計9項目)	余暇キャリア計画性 〈表4〉の項目番号 7,8,9,16,17,18, 25,26,27(計9項目)

(2) キャリア成熟の構成要素

これまでのキャリア成熟の尺度(竹内・坂柳, 1982; 坂柳, 1996)を参考にして, 次の3つの態度特性が設定された。

- ① 関心性 (concern)……自己のキャリアに対して, 積極的な関心をもっているか。
- ② 自律性 (autonomy)……自己のキャリアへの取り組み姿勢が, 自律的であるか。
- ③ 計画性 (planning)……自己のキャリアに対して, 将来展望をもち, 計画的であるか。

成人期におけるキャリア成熟度を測定するために作成された成人キャリア成熟尺度は, 〈表1〉に示した9つの下位尺度で構成されている。なお, 〈表2〉に人生キャリア成熟の測定尺度の項目内容を, 〈表3〉には職業キャリア成熟のそれを, 〈表4〉には余暇キャリア成熟のそれを示した。

(3) 回答の選択肢

尺度は, 各項目とも「5:よくあてはまる」, 「4:ややあてはまる」, 「3:どちらともいえない」, 「2:あまりあてはまらない」, 「1:全くあてはまらない」という5段階評定法を用い, 5点から1点までの得点(逆転項目は1点から5点の得点)が与えられ, 各領域のキャリア成熟(下位尺度)の合計得点が算出されるようになっている。したがって, 各下位尺度の得点範囲は, 9~45点に分布し, 中間点は27点となっている。この得点が高いほど, 当該領域のキャリア成熟, すなわちキャリア成熟度が高いことを意味している。

2. 調査の対象・時期

本調査は, 成人男性746名, 成人女性119名の総計865名を対象にして, 1995(平成7)年6月~7月に実施された。なお, 対象の年代構成は, 20代291名, 30代380名, 40代以上194名となっている。

3. 分析方法

成人キャリア成熟尺度 (ACMS) の分析にあたっては, 次のことに基準をおいた。

(1) ACMS の信頼性

① 項目水準

ACMSの内的整合性(等質性)を項目水準で検討するために, 各下位尺度内の9項目について, 主成分分析を行う。また, 各下位尺度内の9項目におけるそれぞれの項目と残り8項目の尺度得点との間の項目-全体相関を求める。

② 尺度水準

次に, ACMSの内的整合性を尺度水準で検討するために, Cronbachの標準化された α 係数を算出する。

(2) ACMS の妥当性

① 下位尺度間の関連性

成人期におけるキャリア成熟の概念設定の妥当性について検討するため, ACMSの下位尺度間の相関係数を算出する。

② 基準関連妥当性

基準関連妥当性の1つとして, 満足度(人生・生き方の満足度, 職業生活の満足度, 余暇生活の満足度を5段階で自己評価)と, ACMSの下位尺度との関連性を検討する。

結 果 と 考 察

1. 項目水準での信頼性の検討

最初に, 構成された成人キャリア成熟尺度(ACMS)の内的整合性(等質性)について, 主成分分析および項目-全体(I-T)相関の結果を中心に, 項目水準で検討することにする。

(1) 人生キャリア成熟尺度

人生キャリア成熟尺度における下位尺度項目の主成分負荷量, 尺度得点と尺度に含まれる項目得点との相関係数(I-T相関), および各項目の平均と標準偏差

〈表2〉 人生キャリア成熟尺度の主成分分析結果、項目得点と尺度得点との相関係数および各項目の平均・標準偏差

項 目 内 容	主成分 負荷量	I-T 相関	平均 得点	標準 偏差
【人生キャリア関心性尺度】				
1.自分のこれからの人生や生き方には、大変関心をもっている。	.674	.659	4.09	.80
10.これからの人生を、より充実したものにしたいと強く思う。	.638	.553	4.25	.75
R 19.どのように生きるべきかということは、あまり気にならない。	.577	.564	3.42	1.03
2.人生設計や生き方に役立つ情報を、積極的に収集するようにしている。	.642	.615	3.48	.88
R 11.人生や生き方に関係する本や雑誌などは、ほとんど読まない。	.476	.479	3.15	1.10
20.充実した人生を送るために参考となる話は、注意して聞いている。	.661	.620	3.77	.88
R 3.自分は何のために生きているのか、あまり考えたことがない。	.546	.506	3.52	1.05
12.人生設計は自分にとって重要な問題なので、真剣に考えている。	.785	.718	3.64	.90
21.どうすれば人生をよりよく生きられるのか、考えたことがある。	.705	.696	3.69	.92
【人生キャリア自律性尺度】				
4.自分の人生を主体的に送っている。	.537	.443	3.41	.82
13.自分から進んで、どんな人生を送っていくのか決めている。	.784	.537	3.38	.91
R 22.周りの雰囲気にあわせて、人生を送っていけばよい。	.466	.464	3.68	.93
5.人生や生き方には、自分で責任をもつ。	.541	.573	4.19	.73
R 14.人生が充実しないのは、大半は周囲の環境によると思う。	.302	.355	3.59	.96
23.充実した人生になるかどうかは、自分の意志と責任によると思う。	.516	.565	4.14	.74
6.生まれてこなければよかったと思うことが、しばしばある。	.369	.370	4.16	.95
15.人生で難しい問題に直面しても、自分なりに積極的に解決していく。	.639	.577	3.69	.82
24.これからの人生を通して、さらに自分自身を伸ばし高めていきたい。	.675	.588	4.09	.75
【人生キャリア計画性尺度】				
7.これからの人生や生き方について、自分なりの見通しをもっている。	.709	.684	3.39	.86
16.自分が望む生き方をするために、具体的な計画を立てている。	.735	.710	3.15	.90
R 25.これから先の人生のことは、ほとんど予想がつかない。	.387	.427	2.77	.96
8.これからの人生で、取り組んでみたいことがいくつかある。	.699	.560	3.76	.88
R 17.これからの人生で何を目標とすべきか、わからない。	.604	.615	3.40	.97
26.今後どんな人生を送っていききたいのか、自分なりの目標をもっている。	.774	.719	3.57	.87
R 9.人生設計はあるけれど、それを実現するための努力は特にしていない。	.547	.527	3.24	.92
18.希望する人生や生き方が送れるように、努力している。	.718	.657	3.48	.87
27.自分が期待しているような人生を、この先実現できそうである。	.545	.571	3.07	.72

(注1) R は、逆転項目を示す。

(注2) 相関係数は、すべて $P<.001$ で有意である。

を示したものが、〈表2〉である。

これをみると、第1主成分の負荷量は、人生キャリア関心性尺度では、.476～.785、人生キャリア自律性尺度では、.302～.784、人生キャリア計画性尺度では、.387～.774となっており、各下位尺度の項目はいずれも高い値が得られ、1次元性が認められた。

また、項目一全体（尺度）相関をみると、人生キャリア関心性尺度では、.479～.718、人生キャリア自律性尺度では、.355～.588、人生キャリア計画性尺度では、.427～.719となっており、すべてプラスの有意に高い相関係数が得られた。

下位尺度の各項目得点の平均得点は、人生キャリア関心性では、3.15～4.25、人生キャリア自律性尺度では、3.38～4.19、人生キャリア計画性尺度では、2.77～3.76、となっており、相対的には関心性、自律性に

比較して計画性の水準が低くなっている。

以上のことから、項目水準でみた場合、人生キャリア成熟尺度の下位尺度の内的整合性（等質性）は、高いものであると判断できる。

(2) 職業キャリア成熟尺度

〈表3〉は、職業キャリア成熟尺度における下位尺度項目の主成分負荷量、尺度得点と尺度に含まれる項目得点との相関係数（I-T相関）、および各項目の平均と標準偏差を示したものである。

主成分分析の結果をみると、第1主成分の負荷量は、職業キャリア関心性尺度では、.325～.729、職業キャリア自律性尺度では、.208～.709、職業キャリア計画性尺度では、.407～.762となっており、各下位尺度の項目はいずれも高い値が得られ、1次元性が認められた。

項目一全体（尺度）相関をみると、職業キャリア関

〈表3〉 職業キャリア成熟尺度の主成分分析結果、項目得点と尺度得点との相関係数および各項目の平均・標準偏差

項 目 内 容	主成分 負荷量	I-T 相関	平均 得点	標準 偏差
【職業キャリア関心性尺度】				
1.自分のこれからの職業生活には、大変関心をもっている。	.615	.580	3.93	.90
10.これからの職業生活を、より充実したものにしたいと強く思う。	.680	.626	3.99	.87
R 19.どのように働くべきかということは、あまり気にならない。	.448	.450	3.52	1.02
2.職業生活や仕事に役立つ情報を、積極的に収集するようにしている。	.641	.580	3.68	.93
R 11.職業生活に関係する本や雑誌などは、ほとんど読まない。	.472	.455	3.33	1.16
20.充実した職業生活を送るために参考となる話は、注意して聞いている。	.631	.599	4.02	.81
R 3.自分は何のために働いているのか、あまり考えたことがない。	.325	.331	3.47	1.09
12.職業生活の設計は自分にとって重要な問題なので、真剣に考えている。	.729	.367	3.55	.98
21.どうすれば職業生活をよりよく送れるのか、考えたことがある。	.671	.582	3.75	.96
【職業キャリア自律性尺度】				
4.自分の職業生活を主体的に送っている。	.486	.437	3.50	.92
13.自分から進んで、どんな職業生活を送っていくのか決めている。	.709	.438	3.25	.95
R 22.周りの雰囲気にあわせて、職業生活を送っていけばよい。	.409	.345	3.25	.97
5.職業生活の送り方には、自分で責任をもつ。	.438	.400	4.13	.80
R 14.職業生活が充実しないのは、大半は周囲の環境によると思う。	.208	.249	3.22	1.06
23.充実した職業生活になるかどうかは、自分の意志と責任によると思う。	.406	.399	4.09	.85
R 6.働いていてもつまらないと思うことが、しばしばある。	.293	.300	2.88	1.10
15.職業生活で難しい問題に直面しても、自分なりに積極的に解決していく。	.574	.502	3.70	.81
24.これからの職業生活を通して、さらに自分自身を伸ばし高めていきたい。	.654	.498	4.05	.84
【職業キャリア計画性尺度】				
7.これからの職業生活について、自分なりの見通しをもっている。	.656	.628	3.35	.96
16.自分が望む職業生活を送るために、具体的な計画を立てている。	.671	.641	3.06	.95
R 25.これから先の職業生活のことは、ほとんど予想がつかない。	.407	.429	2.85	1.01
8.これからの職業生活で、取り組んでみたいことがいくつかある。	.641	.498	3.55	.99
R 17.これからの職業生活で何を目標とすべきか、わからない。	.633	.635	3.33	1.02
26.今後どんな職業生活を送っていききたいか、自分なりの目標をもっている。	.762	.733	3.54	.93
R 9.職業設計はあるけれど、それを実現するための努力は特にしていない。	.446	.403	3.19	.95
18.希望する職業生活が送れるように、努力している。	.731	.643	3.54	.92
27.自分が期待しているような職業生活を、この先実現できそうである。	.587	.571	2.94	.84

(注1) R は、逆転項目を示す。

(注2) 相関係数は、すべて $P<.001$ で有意である。

心性尺度では、.331～.626、職業キャリア自律性尺度では、.249～.502、職業キャリア計画性尺度では、.403～.733となっており、すべてプラスの有意に高い相関係数が得られた。

下位尺度の各項目得点の平均得点は、職業キャリア関心性では、3.33～4.02、職業キャリア自律性尺度では、2.88～4.13、職業キャリア計画性尺度では、2.85～3.55、となっており、相対的には関心性、自律性に比較して低くなっている。

以上のことから、項目水準でみた場合、職業キャリア成熟尺度の下位尺度の内的整合性（等質性）は、高いものであると判断できる。

(3) 余暇キャリア成熟尺度

〈表4〉は、余暇キャリア成熟尺度における下位尺度項目の主成分負荷量、尺度得点と尺度に含まれる項目得点との相関係数（I-T相関）、および各項目の平

均と標準偏差を示したものである。

これをみると、第1主成分の負荷量は、余暇キャリア関心性尺度では、.556～.743、余暇キャリア自律性尺度では、.241～.777、余暇キャリア計画性尺度では、.528～.766となっており、各下位尺度の項目はいずれも高い値が得られ、1次元性が認められた。

また、項目一全体（尺度）相関をみると、余暇キャリア関心性尺度では、.485～.678、余暇キャリア自律性尺度では、.292～.580、余暇キャリア計画性尺度では、.496～.734となっており、すべてプラスの有意に高い相関係数が得られた。

下位尺度の各項目得点の平均得点は、余暇キャリア関心性では、3.31～4.24、余暇キャリア自律性尺度では、3.28～4.07、余暇キャリア計画性尺度では、3.04～3.81、となっている。相対的には、関心性、自律性、計画性の順になっている。

〈表4〉 余暇キャリア成熟尺度の主成分分析結果、項目得点と尺度得点との相関係数および各項目の平均・標準偏差

項 目 内 容	主成分 負荷量	I-T 相関	平均 得点	標準 偏差
【余暇キャリア関心性尺度】				
1.自分のこれからの余暇生活には、大変関心をもっている。	.631	.603	4.16	.79
10.これからの余暇生活を、より充実したものにしたいと強く思う。	.655	.615	4.24	.80
R 19.どのように余暇を過ごすべきかということは、あまり気にならない。	.595	.562	3.31	1.06
2.余暇生活や余暇活動に役立つ情報を、積極的に収集するようにしている。	.688	.666	3.64	.94
R 11.余暇生活に関係する本や雑誌などは、ほとんど読まない。	.565	.519	3.63	1.07
20.充実した余暇を過ごすために参考となる話は、注意して聞いている。	.704	.662	3.75	.89
R 3.自分は何のために余暇を過ごしているのか、あまり考えたことがない。	.556	.485	3.33	1.02
12.余暇生活の設計は自分にとって重要な問題なので、真剣に考えている。	.743	.678	3.46	.94
21.どうすれば余暇をよりよく過ごせるのか、考えたことがある。	.670	.648	3.64	.94
【余暇キャリア自律性尺度】				
4.自分の余暇生活を主体的に送っている。	.508	.368	3.28	.96
13.自分から進んで、どんな余暇を過ごしていくのか決めている。	.777	.580	3.47	.94
R 22.周りの雰囲気にあわせて、余暇を過ごしていけばよい。	.407	.390	3.51	.97
5.余暇生活の送り方には、自分で責任をもつ。	.556	.579	3.99	.83
R 14.余暇生活が充実しないのは、大半は周囲の環境によると思う。	.241	.292	3.46	1.01
23.充実した余暇生活になるかどうかは、自分の意志と責任によると思う。	.484	.478	4.07	.80
R 6.余暇は単なる時間の浪費にすぎないと思うことが、しばしばある。	.392	.394	3.87	1.07
15.余暇生活で難しい問題に直面しても、自分なりに積極的に解決していく。	.636	.529	3.53	.88
24.これからの余暇生活を通して、さらに自分自身を伸ばし高めていきたい。	.652	.513	3.95	.82
【余暇キャリア計画性尺度】				
7.これからの余暇の使い方について、自分なりの見通しをもっている。	.726	.679	3.31	.94
16.自分が望む余暇生活を過ごすために、具体的な計画を立てている。	.751	.734	3.18	.97
R 25.これから先の余暇生活のことは、ほとんど予想がつかない。	.557	.568	3.04	1.01
8.これからの余暇生活で、取り組んでみたいことがいくつかある。	.659	.560	3.81	.94
R 17.これからの余暇生活で何を目標とすべきか、わからない。	.635	.625	3.46	.99
26.今後どんな余暇を過ごしていきたいのか、自分なりの目標をもっている。	.766	.734	3.46	.97
R 9.余暇設計はあるけれど、それを実現するための努力は特にしていない。	.528	.496	3.20	.98
18.希望する余暇生活が過ごせるように、努力している。	.744	.692	3.51	.91
27.自分が期待しているような余暇生活を、この先実現できそうである。	.560	.582	3.19	.81

(注1) R は、逆転項目を示す。

(注2) 相関係数は、すべて $P<.001$ で有意である。

この結果より、項目水準でみた場合、余暇キャリア成熟尺度の下位尺度の内的整合性（等質性）は、高いものであると判断できる。

2. 尺度水準での信頼性の検討

次に、成人キャリア成熟尺度 (ACMS) の内的整合性を尺度水準で検討するために、Cronbach の標準化された α 係数を求めた。結果は、〈表5〉に示すとおりである。

(1) 人生キャリア成熟尺度

人生キャリア成熟尺度における下位尺度（9項目の合計）の標準化された α 係数をみると、.807（人生キャリア自律性）～.889（人生キャリア関心性）となっており、十分満足できる水準にあった。

また、人生キャリア成熟の総合尺度（27項目の合計）

〈表5〉 成人キャリア成熟尺度 (ACMS) の信頼性 (Cronbachの α 係数)

	人生キャリア成熟	職業キャリア成熟	余暇キャリア成熟
関心性尺度	.869	.833	.871
自律性尺度	.807	.726	.778
計画性尺度	.872	.854	.882
総 合	.933	.914	.935

(注) 数値は、標準化された α 係数である。

では、.933と、高い信頼性係数が得られた。

(2) 職業キャリア成熟尺度

職業キャリア成熟尺度における下位尺度（9項目の合計）の標準化された α 係数は、.726（職業キャリア自律性）～.854（職業キャリア計画性）となっている。職業キャリア自律性尺度の α 係数が、相対的にやや低

い数値であるものの、十分に受容できる水準にあるといえる。

また、職業キャリア成熟の総合尺度(27項目の合計)では、.914と、高い α 係数が示されている。

(3) 余暇キャリア成熟尺度

余暇キャリア成熟尺度における下位尺度(9項目の合計)の標準化された α 係数をみると、.778(余暇キャリア自律性)～.882(余暇キャリア計画性)となっており、満足できる水準にあった。

また、余暇キャリア成熟の総合尺度(27項目の合計)については、.933と、高い信頼性係数が得られた。

以上の結果より、成人キャリア成熟尺度(ACMS)を構成している下位尺度は、内的整合性の観点より、一貫した内容を備えており、信頼性の高い尺度であると判断できる。

3. 下位尺度間の関連性の検討

概念設定の適切性を検討するために、ACMSの9つの下位尺度間の相関係数を算出した。結果は、〈表6〉に示すとおりである。

(1) キャリア系列内

まず、同一系列内の領域間相関についてみると、人生キャリア成熟では、.666～.714、職業キャリア成熟では、.615～.669、余暇キャリア成熟では、.708～.755、となっており、いずれの系列においても高い相関が認められる。すなわち、同一系列内の関心性、自律性、計画性の3つは、相互に密接な関連をもっているといえる。とりわけ、関心性と計画性との結びつきが強くなっている。領域間でまったく独立ではなく、それぞれのキャリア成熟が相互に関連していることが理解できる。

(2) キャリア系列間

次に、同一領域内のキャリア系列間の相関についてみる。関心性では、.370～.660、自律性では、.354～.636、計画性では、.386～.702、となっており、どの領域も中程度もしくはそれ以上の高い相関がみられ

る。特に、人生と職業との系列間には、いずれの領域でも、強い結びつきが認められる。

4. キャリア成熟と満足度との関連

ここでは、基準関連妥当性として、成人キャリア成熟尺度と満足度との関連について検討する。満足度は、人生・生き方、職業生活、余暇生活の3つについて、5段階で評定してもらった。〈表7〉は、キャリア成熟度と満足度との相関係数を示したものである。注目される結果を次に列挙する。

(1) 人生・生き方満足度との関連

人生・生き方の満足度と、キャリア成熟のすべての下位尺度との間に、有意なプラスの関連が認められる。すなわち、自己の人生・生き方に対して満足度が高いほど、キャリア成熟度が高い傾向が示されている。

全体的傾向として、人生・生き方の満足度と、人生キャリア成熟尺度および職業キャリア成熟尺度との間には、明確な関連が認められる。余暇キャリア成熟尺度との間には、ゆるやかな相関がみられる。また、人生・生き方の満足度は、キャリア計画性とキャリア自律性との関連性が強いことも着目される。

(2) 職業生活満足度との関連

職業生活の満足度は、職業キャリア成熟尺度(.285～.395)と最も関連性が強い。とりわけ、自律性と計画性との結びつきが強くなっている。また、人生キャリア成熟尺度との間にも、ゆるやかな相関が認められる。他方、職業生活満足度と余暇キャリア成熟尺度との間には、明確な関連が認められなかった。

(3) 余暇生活満足度との関連

余暇生活満足度との関連についてみると、余暇キャリア成熟尺度との間に最も関連性がみられる。特に、計画性(.384)との間に、相対的に高い関係が認められる。また、余暇生活満足度は、人生キャリアと職業キャリアの両計画性尺度との間にもゆるやかな相関がみられる。

〈表6〉 成人キャリア成熟下位尺度の平均得点、標準偏差、および下位尺度間の相関係数

	平均 得点	標準 偏差	人生 関心性	人生 自律性	人生 計画性	職業 関心性	職業 自律性	職業 計画性	余暇 関心性	余暇 自律性
人生(関心性)	33.02	5.78								
人生(自律性)	34.33	4.73	.666							
人生(計画性)	29.83	5.58	.714	.686						
職業(関心性)	33.24	5.65	.660	.537	.513					
職業(自律性)	32.05	4.59	.460	.638	.540	.615				
職業(計画性)	29.35	5.81	.534	.551	.702	.669	.664			
余暇(関心性)	33.15	5.91	.593	.428	.445	.370	.232	.301		
余暇(自律性)	33.14	4.93	.464	.590	.438	.315	.354	.295	.708	
余暇(計画性)	30.16	6.13	.509	.453	.586	.298	.244	.386	.755	.720

(注1) 相関係数は、すべて $p < .001$ で有意である。

〈表7〉 成人キャリア成熟下位尺度と満足度との関連

		人生・生き方満足度	職業生活満足度	余暇生活満足度
人生キャリア	関心性	.225 **	.159 **	.128 **
	自律性	.384 **	.266 **	.195 **
	計画性	.452 **	.282 **	.235 **
	総 合	.393 **	.261 **	.208 **
職業キャリア	関心性	.246 **	.285 **	.074
	自律性	.397 **	.395 **	.143 **
	計画性	.384 **	.369 **	.178 **
	総 合	.388 **	.395 **	.150 **
余暇キャリア	関心性	.120 **	.034	.228 **
	自律性	.184 **	.037	.319 **
	計画性	.230 **	.049	.384 **
	総 合	.197 **	.044	.343 **

(注1) ** $p < .001$

要約と今後の課題

成人期における勤労者のキャリア成熟度を測定するために、成人キャリア成熟尺度 (ACMS) が作成された。本研究では、ACMS について、その信頼性および妥当性の検討を行った。その結果は、次のように要約できる。

- ① 成人キャリア成熟尺度 (ACMS) の内的整合性 (等質性) について、主成分分析と項目一全体相関より検討した結果、キャリア成熟を測定する下位尺度は、いずれも内的整合性の点で一貫した内容を備えており、信頼性の高い尺度であることが確認された。
- ② 成人キャリア成熟尺度 (ACMS) における 9 つの下位尺度と、3 系列の総合尺度に関して、標準化された α 係数を検討したところ、キャリア成熟を測定する下位尺度と各系列の総合尺度は、十分受容できる水準にあることが確認された。この結果から、ACMS は、尺度水準からも、信頼性の高い尺度であることが保証された。
- ③ 成人キャリア成熟尺度 (ACMS) の下位尺度間の関連性を検討した結果、同一系列内の関心性、自律性、計画性の 3 つは、相互に密接な関連が認められた。また、同一領域内のキャリア系列間では、どの領域も中程度もしくはそれ以上の高い相関が認められた。とりわけ、人生と職業とのキャリア系列間には、いずれの領域でも、強い結びつきがみられた。このことから、ACMS の下位尺度の概念的妥当性は、あるものと判断された。
- ④ 基準関連妥当性として、キャリア成熟と満足度の関係を検討した結果、各キャリア系列に対応する満足度は、すべて有意なプラスの相関が認められた。また、人生・生き方の満足度は、キャリア成熟のすべての下位尺度と有意なプラスの相関がみられ、とりわけキャ

リアの計画性と自律性との関連性が強い。キャリア成熟は、適応 (adjustment) と密接な関係にあることが指摘されている (Crites, 1973)。すなわち、キャリア成熟度の高いものは、より適応的であるということである。したがって、満足度を適応の指標とみるならば、この結果はこれを支持するものといえる。

これまでの検討結果を総合化して考察すると、成人 (勤労者) のキャリア成熟度を測定することを目的として作成されたキャリア成熟尺度 (ACMS) は、おおむね、信頼性および妥当性のある尺度であることが保証されたといえる。

今後は、成人キャリア成熟尺度 (ACMS) を用いて、年齢・性・職種などの層別分析、成人期におけるキャリア成熟の規定要因の分析などを進めていくことが必要であると考えられる。また、成人 (勤労者) のキャリア成熟度に対応したキャリア・カウンセリングのあり方などについて検討していくことも必要であると考えられる。

引用・参考文献

- Crites, J. O. 1973 Theory & Research Handbook for the Career Maturity Inventory. McGrawHill.
- Gysbers, N. C. & Moore, E. J. 1975 Beyond Career Development. Personel and Guidance J. 53, 647-652.
- Herr, E. L. & Cramer, S. H. 1988 Career guidance and counseling through the life span : Systematic approaches. (3rd ed.) Boston : Scott, Foresman.
- 木村周 1997 キャリア・カウンセリング 雇用問題研究会.
- King, S. 1989 Sex Differences in a Causal Model of Career Maturity. J. of Counseling & Development, 68, 208-215.
- Leibowitz, Z. & Lea, D. 1986 Adult Career Development : Concepts, Issues & Practices Washinton, D. C. National Career Development Association
- 中西信男 1995 ライフ・キャリアの心理学——自己実現と成人期 ナカニシヤ出版

- 日本進路指導学会(編) 1996 キャリア・カウンセリング
——その基礎と技法, 実際 実務教育出版
- 坂柳恒夫 1990 進路指導におけるキャリア発達の理論 愛知
教育大学研究報告第39輯, 141-155.
- 坂柳恒夫 1991 進路成熟の測定と研究課題 愛知教育大学教
科教育センター研究報告第15号, 269-280.
- 坂柳恒夫 1996 大学生のキャリア成熟に関する研究——キャ
リア・レディネス尺度(CRS)の信頼性と妥当性の検討 愛
知教育大学教科教育センター研究報告第20号, 9-18.
- 杉溪一言・中澤次郎 1997 産業カウンセリングの課題と展望
カウンセリング研究第30巻第3号274-283.

Super, D. E. 1984 Career & life development. in Brown, D. &
Brooks, L.(eds.) Career Choice & Development. Jossey
-Bass.

Super, D. E. 1986 Life-career roles : self-realization in work
and leisure. in Hall, D. T.(ed.) Career development in
organizations. Jossey-Bass.

竹内登規夫・坂柳恒夫 1982 進路成熟態度尺度(CMAS-1)
の作成と項目分析 愛知教育大学研究報告第31輯, 193-
210.

(平成10年9月11日受理)